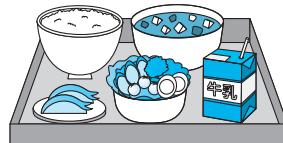




## 学校給食の無償化を求めるなど

日本共産党 佐々木 弘



- 問 今後の中学校給食の無償化を強く求めます。異常な物価高騰の中、少なくとも給食費の値上げや質、量の低下によるいわゆるステルス値上げを招かないような財政措置を取るべきと考えますが、認識を伺います。
- 答 (市長) : 来年度予算案は全ての物価高を想定したものではなく、今後の春闌や日銀総裁交代後に変動する経済情勢に応じ、補正予算で柔軟に対応したいと思っています。
- 問 秋からの中学校給食の一部実施では、給食費の保護者負担についてどのように考えておられますか。
- 答 (教育部長) : 全て公費負担とする予定です。
- 問 市長は令和元年12月定例会で「海老名市内にスマートセンターを要望していく」と述べました。
- 海老名南ジャンクション周辺の住宅密集地での開設は、事故発生や生活環境悪化などの深刻な問題が生じ、適切ではないと考えますが、市としての認識、対応を伺います。
- 答 (市長) : スマートセンターよりも、新東名高速道路を綾瀬方面に伸ばしてインターチェンジを設置する都市計画決定を、積極的に働きかけていきたいと思っています。
- 問 妊婦健診費用に対する本市の助成額は、これまで県内で最低水準でした。来年度は引き上げる予算案となっていますが、健診に自己負担が生じる状況は変わりません。
- 他自治体が行っている多胎妊娠加算の追加も含め、抜本的な助成額の引き上げ、拡充により、早急に自己負担を生じさせないようにすべきと考えますが、認識を伺います。
- 答 (保健福祉部次長) : 来年度は4千円増額し総額6万4千円とする予定ですが、引き続き国や県の状況を注視しつつ、ニーズを的確に捉え支援に取り組みたいと考えています。



## 持続可能な有機農業の推進について 海老名市の防災について

いちごの会 つづ木 みゆき

- 問 ネオニコチノイド系農薬について見解を伺います。
- 答 (市長) : 法律に基づく国の登録を受けた農薬について市が使用の禁止や規制をする立場ではありませんが、農薬は農産物に散布などをすることでその一部が環境中に放出されるため、人体や環境に対する安全を確保し適正に使用することが重要と認識しています。
- 問 持続可能な有機農業の推進について見解を伺います。
- 答 (経済環境部次長) : 有機農法は一般的に化学肥料や農薬、遺伝子組み換え技術を使わない栽培方法と言われています。広い意味では完全無農薬ではなく減農薬や、有機質が多く含まれた化学肥料を使用する方法も有機農法と捉えられることもあります。市としては減農薬につながる天敵や農業資材、有機質肥料の購入といった有機栽培の取り組みに補助金を交付するなどの支援を行っています。
- 問 令和元年台風19号を教訓に策定された相模川氾濫基本的対処方針の内容と、策定後の取り組みを伺います。
- 答 (危機管理担当部長) : 相模川の氾濫が予想される場合には、相模川浸水想定区域内に居住する約6万人弱に及ぶ市民の避難確保と、氾濫発生によって生じる被害の極限および市民生活や経済活動への影響を最小限に抑えることを目的としています。
- 策定後には、消防署および消防本部の全職員にこの対処方針を踏まえた図上研修を行うとともに、市消防団が徒步で家屋倒壊等氾濫想定区域の残留者確認訓練を実施しました。また消防職員以外の市職員に毎年開催している研修にも、対処方針の内容を盛り込んで実施しています。



## ともに認め合うまち・海老名の障がい者への取り組みについて

無会派 たち 登志子

- 問 本市の公共施設におけるバリアフリーの現状と今後の課題について伺います。
- 答 (財務部次長) : 県のみんなのバリアフリーまちづくり条例の整備基準に適合した整備をしており、条例の制定前からある施設は大規模改修などの際に整備基準に適合するよう努めています。施設の構造上、法令改正で変更される整備基準への適合が難しい場合があることが課題です。
- 問 パラスボーツ教室の定期開催など本市のパラスボーツの取り組み状況を伺います。
- 答 (保健福祉部次長) : コロナ禍の影響もあり定期的な開催はここのこところありませんでしたが、令和4年度はレクパラスボーツエスターを開催しました。令和5年度も誰でも気軽に楽しめるパラスボーツ体験の場を実施し、障がいへのさらなる理解を促進していきたいと考えています。
- 問 江戸川区ではパラスボーツ教室などさまざまな充実した事業が展開されています。本市でも取り入れられる事業があると思いますがいかがですか。
- 答 (保健福祉部次長) : 本市も市内の社会資源を活用したパラスボーツ事業への取り組みを研究したいと思います。
- 問 触れる機会が多ければ理解は深まります。今後の学校におけるパラスボーツ体験の実施についてお伺いします。
- 答 (教育長) : インクルーシブ教育を進める立場からは、音楽や絵画なども含めた全体としての社会的包摂性がどう整うかが大切と考えます。パラスボーツを体験することで、次の時代において本当に包摂的な社会を作れる子どもたちを育てるために、小中学校で取り入れていきたいと考えています。

